

「現代の名工」に150人

厚労省 県内から1人選出

厚生労働省は5日、工芸や調理、衣服など各分野で卓越した技能を持つ150人を2021年度の「現代の名工」に選んだと発表した。表彰式は8日に東京都内のホテルで行われる。1967年度から始まって今年が55回目で、表彰者は本年度を含めて6796人となった。

斬新な「円形畳」の製作など、高い技術を誇る福島県郡山市の畳工吉田克浩さん(63)のほか、江戸前の天ぷら調理の技を発展させた東京都江東区の天ぷら料理人早乙女哲哉さん(75)ら。和服製作に優れ、難しいとされる和装用コートを短時間で縫製できる技能を考案した大阪府枚方市の和服仕立

職、鈴木房子さん(71)も選ばれた。県内からは熊本市西区の電気めっき工、安田敬一郎さん(50)が選ばれた。

現代の名工の表彰制度は、技術者の地位や技能の向上を図るのに加え、社会一般において技能を尊重する風風を広め、将来を担う優秀な技能者を育成するのが目的。産業の発展への貢献などを条件に、都道府県や業界団体の推薦があった人の中から、近年は毎年約150人を選んでいる。

めっき加工の研究に打ち込む安田敬一郎さん

＝合志市のオジックテクノロジーズ合志事業所



電気めっき工 安田敬一郎さん(50)

＝熊本市西区

「お客さんが抱える問題を解決できたとき、一番やりがいを感じる」。電気めっき加工の技術や開発を通じて、半導体製造などの製品の付加価値を高める。取引先の数々の要望に応えてきた。

熊本市出身。熊本工業大(現・崇城大)卒業後、好きで得意だった化学に関する仕事をした

半導体の付加価値高める

いと、現在の「オジックテクノロジーズ」(熊本市)に就職。めっきの知識や経験は全くなく、「目に見えない化学反応だから、技術の習得には苦労した」と笑う。ゼロからのスタートだったが、ハイテク産業に欠かせないめっき加工で特許を取得するなど、技術を磨き続けてきた。

取引先からの問題解決の依頼はさまざま、中には実現可能かどうかわからないものも。要望の本質を理解するために、蓄積した幅広い産業の知識と過去の経験、データを総動員して日々、試行錯誤を繰り返す。

社内外の技術者や学生にも技術を伝える講習会を開くなど、後進の育成にも力を入れる。「熊本の半導体産業全体をもっと盛り上げていきたい」と意気込む。

(東有咲)